# 寮祭

寮祭　バンフ表紙絵担当

## 千紫万紅の輝き

保健医療学部看護学科　池谷 心羽（桐朋女子高等学校出身）

今年度の寮祭のパンフレット表紙絵を描かせていただきました。今年度の寮祭のテーマは「千紫万紅」です。千紫万紅とは、「色とりどりの花が咲き乱れる情景、また、さまざまな色彩」という意味があります。

寮祭１日目の体育祭では、赤、青、黄、緑、紫、オレンジの６色の組に別れて、さまざまな競技で競い合いながら体育祭を盛り上げました。千紫万紅の意味である「さまざまな色彩」という部分は、この体育祭の６色の組にかけているのだと思い、パンフレットの表紙絵には６色全ての色を使って、色とりどりの花や葉を描かせていただきました。体育祭では練習の時点から、どの組も一生懸命取り組んでいて、本番は全力で楽しんでいる姿を見ることができました。また、２日目のプログラムには体育祭のように色別で何かをする機会はありませんでしたが、有志でダンスや歌を披露してくれた人達や、本格的なおむけ屋敷、今年から復活した模擬店など、楽しい思い出がたくさんできました。

昭和大学を志望してみったと思ったと同時に、パンフレットの表紙絵担当として寮祭の運営に関わることができたことを嬉しく思います。

寮祭　模擬店担当

## 寮生活だからこそ得られた思い出

歯学部歯学科　島津 花帆（共立女子中学高等学校出身）

今年の寮祭では、新型コロナウイルスによって制限されていた飲食物を扱う模擬店出店が４年ぶりに復活しました。焼きそば、うどん、ポップコーンなど飲食物の販売店をはじめとする多様な出店が会場に並び、大いに盛り上がりました。

私はコンパで、タピオカやヤナデココもトッピングできるドリンクを販売しました。寮祭まであと２週間となった矢先、百合寮内で新型コロナウイルスの感染者が増え、百合寮の学生は外出が制限される事態となりました。私たちは買い出しに行くことができなくなり、当日までに準備が間に合うのか不安が募りました。そのため、男女で買い出しに行く学生と寮内で装飾の準備をする学生とに役割を分担し、協力して模擬店の準備を進めました。また、準備中を含めコロナ対策としてマスクや手袋を着けることを徹底しました。あっという間に寮祭当日を迎え、模擬店は大成功に終わりました。

模擬店を出店しようと準備を始めた日から当日まで、いつも気にかけてくださる指導担任の先生含め、コンパ全員の協力がなければできないものでした。急な事態でもみんなで連絡を取り合って臨機応変に対応することができたのは、普段からこの寮生活で培われたコミュニケーション力や、人と接する楽しさがあったからこそだと感じています。寮生活でなければ味わえない体験や感情がまた一つ増えた大切な思い出となりました。

★コンパ１３名の指導担任のもと、16～20人ほどを単位とするグループの通称。

寮祭　実行委員長

## 個性溢れる寮祭

薬学部医学科　山田 直汰（浩星高等学校出身）

私は令和５年度寮祭の実行委員長を務めました。寮祭の準備において最も苦労したのは、コロナ対策でした。コロナが一時収束してきた頃に、コロナ以前の寮祭に戻せるところは戻そうと先生方に言って伺ったが、寮祭の準備に取り組みありました。しかし、寮祭が近づくにつれて、寮内で感染が広まっていきました。その際に部門長とコロナ対策について考え、可能な限り以前と遜色ない状態の寮祭を実現できるように意見を出し合いました。昨年度ならば大きな違いは、食品を提供する模擬店です。模擬店部門の部門長をはじめ、多くの方の努力のおかげでコロナ対策を徹底し、食品を提供する模擬店を数年ぶりに復活させることができました。

今年度の寮祭のテーマは「千紫万紅」でした。大盛り上がりの前夜祭で始まった寮祭は、ライブ、イベント、体育祭、模擬店など多くの場面でみんなが個性を発揮し、色とりどりの花を咲かせてくれたと思います。そして、寮祭を締めくくった花火は今でも鮮明に思い出されます。

寮祭は私にとって非常に充実したものでした。寮祭を通して多くのことを学び、成長することができました。最後になりますが、寮祭に携わった全ての方に感謝申し上げます。

寮祭　ダンス担当

## 最高のチームワークがもたらしたステージ

保健医療学部看護学科　白旗 花菜（玉川学園高等部出身）

私たちは寮祭の前夜祭でダンスを披露しました。寮の同じフロアのメンバーの７人で結成したグループ「MELTY」。曲目は白雪姫のアザトカワイイ。元々私たちは入学当初から一緒に行動していた訳ではなく、日々の挨拶や各階にある共有ラウンジでの交流が「６月の寮祭で一緒に踊ろう!」という会話に繋がりました。

しかし、コロナが寮内で流行ったことから練習できる時間が限られてしまい、寮祭４日前から夜の時間を使ってみんなで協力して練習を行いました。短い期間で完成させることができたのは、チームワークがあったからだと思います。このチームワークは、各メンバーが寮生活や仲回も行う授業中のグループワークを通して得たコミュニケーション能力が発揮されたのだと思います。

そして前夜祭では、私たちが想像していた以上に観客が集まり、盛大な歓声と拍手を頂くことができました。高校の文化祭のようにとても賑やかな雰囲気だったことを今でも覚えています。

こうした成功の背景には、昭和大学ならではの寮生活があります。寮生活では、他学部の友人がたくさんできます。実際に私の部屋には医歯薬系の学生が集っており、１年次から仲を深めることで将来の現場で
各専門分野の相談を行いやすいなど、
より良いチーム医療を実践できることに繋がると考えています。私にとっての寮生活は、多くの友人に囲まれて毎日がとても楽しく充実した１年でした。人との関わり方もたくさん学びました。この学びを将来のチーム医療で実践できるようにしたいと思います。

ハロウィン　菓子担当

## 「やりたい」という強い意志、支えてくれる仲間

保健医療学部看護学科　渡邉 千早（東京都立国際高等学校出身）

暑さも やわらぎ、いよいよ初年次体験実習に向けキャンパス全体が緊張感に包まれている事節に、私はあることに向けて動き始めました。それは自然教育園と医薬資源園のアルバイト合同で行われるハロウィンのライトアップ。南瓜の形をした手作りスノーボールをキャンパスの人たちに配ろうというものでした。私は以前からお菓子作りが得意で、自然教育園のアルバイトに採用されたときからイベントに手作りのお菓子を提供したいと考えていました。しかし、コロナ感染者の増加等により、この時期にいたるまで一度もその夢を叶えることができませんでした。

だからこそ、実習を目前に控えて外出自粛となり、不自由な思いをしていてもあろう学生たちに少しでも特別な思い出を作ってほしいとの願いから、実施日の一週間前に企画書を作成して人員を募集し、計550個ほどのお菓子を作り、配ることができました。

今回の経験から私は「やりたい」という強い意志を持つことの重要性と、それを支えてくれる仲間のありがたみを改めて学ぶことができました。このイベントの成功は今後の私の自信と行動力の源となるでしょう。急な募集だったにも関わらず参加してくれたアルバイトの仲間、どうすればできるかを一緒に考え、方々に掛け合ってくださった職員の方、そしてこのイベントに関わってくださった多数の皆さまにこの場をかりて感謝いたします。

ハロウィン　ジャックオランタン担当

## 富士吉田寮ならではの最高のハロウィン

薬学部薬学科　永川 凜（南山学院大学高等部／ルーテル学院中学校・高等学校出身）

私は寮内アルバイトである医薬資源園の一員としてハロウィンのイベントに参加しました。医薬資源園とは、生薬の材料となる植物などを栽培している寮内施設のことで、富士吉田寮だからこそできるやりがいのあるアルバイトだと感じ、医薬資源園で働こうと思いました。イベントではハロウィンの飾りつけやお菓子作りなどさまざまなことをやりました。今回は飾りつけで使うジャックオランタン作りについて紹介しようと思います。

ジャックオランタンとは、カボチャの中身を取り出し、顔を彫って作るハロウィン定番の飾りつけです。カボチャは学内施設の一つである自然教育園で栽培したものを使いました。友人たちやサークル単位で参加してくれた学生も多く、和気あいあいとした雰囲気で作業を進めることができました。アルバイトの学生も参加者のサポートをしながら、参加者の少ない時間帯にみずからジャックオランタンを作ることができ、アルバイト関係者の枠をこえて初めて会った学生とも仲が深まる楽しいイベントでした。

皆で作ったジャックオランタンを使って飾りつけを行ったハロウィンのイベントは大盛況に終わり、記憶に残るとても楽しいイベントとなりました。

## 編集後記

広報誌委員長　富士吉田教育部　教授　田中 周一

富士吉田キャンパス広報誌「白樺・百合」は今号で45号となります。編集委員として第９号から関わってきた筆者は、今年度をもちまして定年退職。新年度から新たな編集委員長のもとで心機一転の再スタートとなります。

ここ数年は、新型コロナ対策特集号や別冊を挟んだ特別編集号など、従来にない試みをしてきました。筆者を委員長とする発行は次号が最後となります。新体制での広報誌にアイデアやご要望などございましたら、どうぞ編集部までお寄せください。

今後も「白樺・百合」をよろしくお願いいたします。


白樺・百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第 45 号　2023.12.22 発行

発行責任者　富士吉田教育部長　倉田 知光
編集責任者　富士吉田教育部広報委員長　田中 周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403

「秋晴れ」（逆の駅富士吉田にて）　富士吉田教育部　准教授　前田 昌子　撮影

## 着任のご挨拶

昭和大学　富士吉田校舎　事務長　倉地 夏樹

2023年4月1日付で藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院事務長から富士吉田校舎の事務長として着任いたします倉地夏樹（くらちなつき）と申します。

身に余る重責ではございますが、誠心誠意、昭和大学の初年次教育の発展に尽力し、皆々様のご開待に添えるよう、より一層努力して参る所存です。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

私は、平成14年入職以来、藤が丘病院管理課、学事部学務課、横浜市北部病院管理課、歯科病院など病院部門、教育部門で過ごしてまいりました。二つの部門で勤務してきた経験を活かし、富士吉田校舎に貢献してまいります。

さて今和2年1月に国内初感染者が確認された新型コロナウイルス感染症は全世界で猛威を振るい、富士吉田校舎でも入寮期間の短縮や遠隔授業の実施など、全寮生活の運営に大きな影響を及ぼし、学生生活にも変化をもたらしました。

その後、職員の献身的なサポートや学生の感染予防を意識した寮生活への取り組みにより、令和5年度は4月から学事予定の通り学生は修学し、各種イベントを実施できる環境となりました。

新型コロナウイルス感染症が終息するのは、まだ先のことになりそうですが、学生の皆さん一人一人が感染しない、させない意識を持って、寮生活を送ることができれば、コロナ禍以前と同じように富士吉田での学生生活を充実させることができ、その経験は将来、医療の現場に立った時に必ず役に立つ時が来るでしょう。

本学の1年次全寮制と学部連携は、ほかのどの大学にもない特徴です。

私も4学部が連携して、チーム医療で活躍する人材を育成するという本学の学びの「源流」である富士吉田校舎での学びを充実させるべく、全職員一体となって取り組んで参りたいと思いますので、ご指導・ご協力をお願い申し上げます。

**広報誌名称について**

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮（男子寮）」「百合寮（女子寮）」の二寮からスタートした。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いがこめられています。

# 体育祭

体育祭　部門長

## 思い出の１ページ

薬学部薬学科　稲垣 諒汰（千葉県立薬園台高等学校出身）

多くの学生の思い出に残る寮祭に微力ながらも尽くすことができたらという思いで、私は体育祭部門長に立候補しました。そして、本番の約1ヶ月前から本格的に動き始めました。チームやスケジュールや競技を決めたり、熱中症やコロナ感染症への対策を講じたりと、考えることが多く、中でも熱中症・コロナ対策は医療人としての自覚を持ちながら最大限楽しめるように何度も考え直しました。副部門長や部門員の力を借りながら企画書を書き、準備をしてきました。

当日は、学生たちが主体となって応援したり、競技に取り組んでいたりと、とても盛り上がりました。学生たちの楽しそうな顔を見たり、労いの言葉をかけてもらったりすることで、大きな達成感を得ました。

寮祭実行委員長や他の部門長、部門員、先生、学生など様々な方の協力のもと体育祭を成功に導くことができ、非常に貴重な体験ができました。至らぬ点も多い中、協力してくれた皆様、本当にありがとうございました。

体育祭　優勝カラー長

## 激熱！ 富士吉田寮祭！

医学部医学科　杉本 寛見（新潟県立新潟高等学校出身）

高校時代、新型コロナウイルスの影響でさまざまな行事が中止になった私にとって、昭和大学での寮祭は非常に心躍るイベントになりました。その寮祭のプログラムのひとつが体育祭でした。自分でどれだけやれるのか不安でしたが、１年生全体を６つの色別チームに分けた紫チームのカラー長として、なるべくみんなが楽しめるよう工夫しました。競技種目に関して学生たちの希望を聞いたうえでその通りに配置した結果、自分の属するチームが優勝するという最高の結果で終えられたのは良かったと思っています。

大学での体育祭がどれほど盛り上がるのか、どれくらいみんなのやる気があるのか最初は心配でしたが、想像以上の熱気と歓声に包まれ、時間の経過を忘れる非常に興奮した思い出となりました。特に最後のリレーは点数がどても大きく、勝負を左右するような大事なレースだったので、ミスもなくぶっちぎりで一位を取ったときは最高に盛り上がりました。みんなで隣になって声を出し合い喜んだあの瞬間はコロナ禍で長く味わうことのできなかった非常に熱い思い出です。寮でできた仲間との絆を深めるとともに、これからの大学生活に希望を感じることができる濃密な一日でした。

寮チームの皆さん、本当にお疲れ様でした。忘れることのできない良い経験となりました。運営の皆さん、ありがとうございました。

# 初年次体験実習

入学式・入寮式

## 「昭和大学に入学してよかった」

薬学部薬学科　野部 直弘（城北高等学校出身）

私たち新入生は、旗の台に集合してから富士吉田キャンパスに移動し、入学式・入寮式を行いました。私は寮生活に少なからず不安を感じていましたが、集まった新入生を見ると、真新しい服に革靴、硬い表情など自分と同じような仲間が並んでいました。それを見て、私の緊張は溶けて行きました。緊張のバスは乗るところには、法人たちとずっかり打ち解けていました。私のスタートは、このバスの中で始まったと思います。

私には入学式で新入生代表として「昭和大学宣言」を読み上げる大切な役割がありました。合格後にご指名を受け、緊ちつつも名誉ある役割だと感じ、おりき受けいたしました。入学式前には先生方が丁寧にご指導くださいました。本番では緊張のあまり声が上ずったりしましたが、何とか無事に成し遂げることができました。重積を果たすと共に、昭和大学の一員になったという思いがこみ上げてくる貴重な体験でした。

入学式では、久光学長から「心を養う」という言葉をいただきました。いま、あらためてこの言葉をかみしめてみると、入寮式から始まった寮生活の中で感じた様々な事柄を積み重ねでゆくことゃを養うことになるのだと考えています。

都心よりも四季の移り変わりが感じられる富士吉田キャンパスで、様々な人間関係を構築しながら未来に向けてゴを養っていることを強く実感しています。

国際化ウィーク

## 将来の選択肢が広がる

保健医療学部看護学科　土屋 柚貴（八王子学園八王子高等学校出身）

富士吉田キャンパスでは国際化ウィーク特別講演と題し、海外の医療現場で活躍されている方々による講演会があります。今回はカンボジアで歯科医師として働く先生のお話を聴かせていただき、東南アジアの医療について学びました。海外の医療は日本より遅れていると思いがちですが、実際はそうではありません。例えば、都市部に位置する病院には通訳者がおり日本語のみで医療を受けることができるほか、病院の入り口から段差が一切ない作りになっているなど日本の病院よりも発展している部分も少なくあります。その一方農村部では水道電気が通っていない地域も多く、その点で病院の設立が困難ため医療が未発達です。日本ではそういった地域へ出向き、病院へ行くことのできない人々の診療などを行っています。

将来の選択肢を広げるために、まずは「知る」ということが大切です。今まで私は、海外で働くということは全く考えていませんでした。しかし今回の公演で海外における医療の現状を知り、海外での活躍に興味を持つきっかけとなりました。日本だけでなく海外での活躍も視野に入れることができる、そのような機会を与えてくれる富士吉田校舎での学びはとても貴重なものです。

ロータリークラブ

## 富士吉田の良さを実感したボランティア活動

医学部医学科　木本 光咲（洗足学園高等学校出身）

5月下旬、地元の高校生や地域の方々とともに富士吉田市内の清掃活動に参加しました。昭和大学はこの清掃活動に毎年参加していましたが、新型コロナウイルスの影響でそれが見送りとなり、今年度は3年ぶりの参加となりました。清掃活動は交通量の多い道路の周辺を歩きながら行いました。その日は快晴で気温も高く、日差しも強かったのですが、時々吹く風はとても心地よく、富士吉田の過ごしやすい気候を感じながら清掃活動に参加することができました。

観光客の多い富士吉田市の道路の清掃は少し大変だと感じることもありました。しかし、入寮後の外出制限が緩和されたばかりで、あまり富士吉田市について知らなかった私たち学生にとって、これから生活していく富士吉田市のキャンパスがの魅力を知ることができ、楽しみながら高校生や地域の方々と協力して行うことができました。また、活動中に通ったさまざまな場所はいつか訪れてみたいと思う所が多く、その後の寮生活に対する楽しみを増やすことができた活動でした。

この活動を通して、普段とは異なる視点から富士吉田の魅力を感じ、同時に高校生や地域の方々と交流ができる貴重な機会となりました。今後、地域と関わることができるような活動があれば積極的に参加したいと思うきっかけにもなりました。ありがとうございました。

病院見学実習

## チーム医療の大切さ

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻　野口 はるか（女子聖学院高等学校出身）

学部連携の病院実習では、学部別実習ではなかなか学ぶ機会のない、チーム医療の大切さについて学ぶことができました。

昭和大学病院では、医師や薬剤師、看護師や理学療法士、作業療法士だけでなく、栄養士や検査技師などの複数の職種がチームを組んでチーム医療を行っています。実際に栄養科で栄養サポートチームについて栄養士の方にお話を伺った際に、医師だけでなく、看護師とも連携を取り、患者さんそれぞれに適した栄養の摂取方法、そして満足度や喫食率の高い食事を考えているとおっしゃっていました。さらに、このような栄養方法と食事を見つけるためには、医師と患者さんの症状を共有したり、看護師と患者さんの食事摂取状況を共有したりするなど、多職種の連携が重要であることを改めていただきました。

最後に、今回の病院実習では、将来医療者になる者として、普段の授業では学ぶことのできない状況などを多く学ばせていただきました。今回の経験を活かし、立派な医療者となれるよう頑張っていきたいと思います。ご指導いただいた昭和大学病院の皆様、昭和大学の教職員の皆様、ありがとうございました。

施設実習

## 医療と介護のかかわり

薬学部薬学科　内藤 咲希（静岡県立静岡高等学校出身）

私はこの実習で老人ホームに行ったことがありませんでした。そのため、入居者の方や、施設での生活をイメージすることができず、高齢者の介護に対する情報も漠然としたものとして受け取っていました。

実習では入居者の方とのコミュニケーションをとることに努めましたが、会話を続けることだけで精一杯でした。しかし、介護士や看護師の方たちは食事介助や排泄介助をしながらコミュニケーションをとっており、また、スタッフ間では同時の呼吸で協力体制がとられていました。これがプロフェッショナルの姿なのだと実感したとともに、スピードを求められる現場において必要なことは、声を出して協力するという段階を超えて、言葉を発さずとも最適の行動をとり、協力体制を構築することできるようにと感じました。

施設実習を通して、医療現場と介護の現場それぞれの役割が相互に密接にかかわっていることに加えて、精神的な部分でも通ずる部分が多いのだと肌で実感でき、とても大きな収穫でした。今後更に高齢化が進んでいくなかで、私たちは介護の世界と更に手を取り合っていく必要があると感じ、医療に関するアンテナはよりいっそう広い範囲に向けるべきだと思いました。

BLS講習

## 私たちにできること

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻　開　琳花（森村学園高等部出身）

目の前に倒れている人がいる…。今までの私なら、その事実だけで体が固まり、動くことができなかったと思います。しかし、いざという時は今日来るかもしれないし、数秒後かもしれません。

BLS（BasicLifeSupportの略で、心配停止や呼吸停止に対する一次救命処置）の体験実習は、有事に迅速な行動ができるための訓練であり、医療従事者として大切な要素です。担当してくださった先生方は、一つ一つ丁寧に、親身の指導をしてくださいました。もちろんそこに横たわるのは人形でしたが、先生の真剣さから、血の通ったように感じられました。

胸骨圧迫は両手の掌を組み合わせて押します。押すというよりは、自分の体重を「落とし込む」ように行います。体力がとても必要となり、額には汗が噴き出してきました。気道確保を行うための頭部後屈をする際も思いのほか人の頭というのは重く、傾けるのにも難しさを感じました。AEDの使用も一つ手順を間違えれば、助かるはずの命もあれわねません。最初こそ恥ずかしさが先行しましたが、周りからのかけ声う受けながら、本当に意識のない方に対して行なっているのだと想像すると、自然と私も声が出ていました。

このようなBLSの実習は、本当に有意義な実習でした。体験していなければ、いざという時に体も頭も動かないと思います。一歩踏み出す勇気、一言かける声、次を予測して動き出す行動力。全ての大切さを、BLS体験実習は感じさせてくれました。

# 学部実習

学部実習　医学部

## 学部実習を通して学んだこと

医学部医学科　鈴木 詩織（市川学園市川高等学校出身）

初年次体験実習の医学部実習は3日間にわたって行われました。1日目は生化学実習としてアルカリホスファターゼ活性測定を行い、酵素の基本的な性質とその活性の評価方法を学びました。

2日目はプロフェッショナル教育の一環としてセルフマネジメント演習を行い、性格特性を知ることやマインドフルネス・ストレス低減法の実践などを通じて自分自身のケアの方法を学びました。

3日目は医療面接における適切なコミュニケーションスキルや、血圧、脈拍、呼吸、酸素飽和度、体温の正しい測定方法の修得を目標に、模擬患者さん参加のもと、それぞれが緊張感をもって医療面接と身体診察の演習を行いました。医療面接を1年生から経験することができるのは昭和大学医学部の大きな特徴であり、早い段階から臨床を意識することのできた貴重な経験となりました。

この3日間の実習は、医学生としての自覚をもち、将来目指す医師像の具体的なイメージを描く機会となったとともに、専門教育へのモチベーションを高めることのできた充実した実習となりました。

学部実習　歯学部

## 未来への一歩

歯学部歯学科　宮本 露亜（長野県立長野高等学校出身）

初年次体験実習において、歯学部では昭和大学歯科病院での各診療科の見学や、石膏模型を作成する技工実習などを行いました。

今回、私は歯科放射線科、小児成育歯科、インプラント歯科を見学させていただきました。歯科放射線科やインプラント歯科では、多職種連携におけるコミュニケーションの重要性について学ぶことができました。歯科衛生士や放射線技師など多くの方と協力し合って仕事をする中で、感謝の気持ちを忘れないことが重要だと教えていただいたことが印象に残っています。また小児成育歯科では、患者さんの言葉に耳を傾け、寄り添う姿勢について学びました。特に「相手の意見を否定せずに受けとめる」といった点は、医療従事者としてだけでなく、日常生活の中にも活かしていくべきだと感じました。

学部実習を通して、さまざまな側面から歯科医師の仕事に触れることができました。真摯に対応してくださった先生方、ご尽力くださった関係者の皆様への感謝の気持ちを忘れず、将来歯科医師になるために精進していこうと思います。

学部実習　薬学部

## 薬剤師の役割

薬学部薬学科　飯島 紗香（横浜市立桜丘高等学校出身）

薬学部の学部実習は富士吉田キャンパス周辺にある薬局で行われました。私はファイン薬局で調剤室の見学や模擬服薬指導を体験させていただきました。薬局の裏側を見ることが初めてだったので、自分が持つ薬局業務のイメージと実際の業務とのつながりを知り、想像する薬剤師像がより具体的なものになりました。

実習の中でも特に印象に残っていることは、模擬服薬指導で「薬剤師は、患者さんが一日の最後に関わる医療人である」と話されていたことです。この気持ちをもって日頃から医療に関する知識を深めていることや、患者さんに寄り添った対応をしていることを学びました。スタッフの方々や薬剤師の仕事に誇りをもって働いているのだと実感できた貴重な経験となりました。

また学内でもモバイルファーマシー（薬局機能を搭載した災害対策医薬品供給車両）の見学や漢方調剤実習のプログラムが組まれ、薬剤師が社会の中でどのような役割を担っているのかを学び、医療人としての自覚を高めることができた有意義な実習であったと感じています。

学部実習　看護学科

## 看護の現場を見学して

保健医療学部看護学科　小菅 輝星（三浦学苑高等学校出身）

看護学科では三日間の学部実習のうち二日間の病院実習を行います。

実習中の私の一番の学びは、"患者さんの病気を知るということの大切さ"についてです。きっかけは、「整形と循環器の患者さんでは、経過表に記録する項目が同じではない」という看護師の言葉でした。理由を伺うと、正常な人は一週間で2、3kg増えることはないが、循環器の患者さんの場合、摂取したものが排泄できず、体の中に溜まってしまい、手足が浮腫んでしまうなど、一週間で2、3kg増えてしまう可能性があるためでした。また、質問していると、「循環器の患者さんだから」という言葉を多く耳にしました。そこから、患者さんの抱える病気の理解があってこその看護であると気づくことができました。その病気がもたらす苦痛、危険性、緩和方法といった、病気への理解が不可欠であり、患者さんの病状をきちんと知ることりこそが、すべて患者さんの安全につながっていることであると学んだと同時に、知らないということの怖さはあらためて気づかされました。

病院実習で得たものは、私のこれからに大きな変化を与えてくれることでしょう。この経験を胸に一人前の看護師になるために日々自分を磨いていきたいと思います。

学部実習　理学療法学専攻

## 最初の一歩

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻　木村　葵（静岡県立島田高等学校出身）

最初に学部別実習について説明します。昭和大学では学部連携実習と別に、それぞれの学部・学科の専門に沿った実習を3クールに分けて3日間行います。保健医療学部では最初の2日間で4つの附属病院に行き、3日目に3学科合同でフィードバックをしました。リハビリテーション学科では、1人の理学療法士ないし作業療法士に対して2人の学生がついて病棟を回ることもあります。

私が、昭和大学を選んだ理由の1つは、早い時期からの病院実習があり実際に多くのことを学べることでした。その志望理由が実現し、この大学に入学することができてよかったと感じました。その中でも特に印象に残っていることは、脈拍や血圧の測定を実際の患者さんに対して行うことができたことです。患者さんの中には不整脈や頻脈の方もいらして、そうした患者さんと触れあうことにより、座学では得にくい体験をすることができました。また、理学療法士の仕事には患者さんの動きの制限や怪我の原因を聞くなどの役割もあることがわかりました。

3日目のフィードバックではそれぞれの体験したことを共有し、医療人としての自覚をより強く持つことができました。初めての実習でわからないことや不安なことがありましたが、有意義な実習になったと思います。本実習に関わってくださった方々、本当にありがとうございました。

学部実習　作業療法学専攻

## 未来に繋がる実習

保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻　佐々木 萌実（宮城県立古川黎明高等学校出身）

10月に実施された初年次体験実習の学部実習で、私たち作業療法学専攻の学生は2日間の病院実習、そして看護学科や理学療法学専攻の学生たちと合同のまとめ学習を行いました。今回、作業療法学専攻は1日目に昭和大学附属鳥山病院、2日目は昭和大学藤が丘病院、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院で体験実習を行いました。

実際に現場の空気を感じ、患者さんと交流を持つことはとても貴重な体験です。精神疾患専門の作業療法士と、身体障がい専門の作業療法士では何が異なるのか、反対に共通点は何か、患者さんとの関わりかなど、担当の患者様の方の一挙一動全てが学びに繋がります。この実習のおかげで、自分の将来の夢がより具体化したことを思て感じました。

また、1年生の実習で感じた現場の印象は、実際に患者さんが感じている印象と一番近いものだと思います。自分がもし患者側だとしたら、医療者とはいえ他人に術後の身体を触らせる恐怖はどれほどのものでしょうか。初めて患者さんに触れたときに感じた自分の手の心もとなさは、初入院の患者さんが初めてリハビリに行くときに感じるものと同じかもしれません。2年生以降も実習の機会はありますが、まずは初めての実習で感じた限りなく患者目線に近い印象を大切にしていこうと思います。